



ウチのペットはドーベルマン

本稿を日本出張中に書いているのですが、ワシントンDCから成田に向かう機内で観た邦画の1シーンに、主人公が犬の群れに襲われるシーンがありました。その群れのリーダー格の犬は“狂暴”なドーベルマンでした。ドーベルマンは凶暴で怖い犬…実は、我が家の飼い犬はドーベルマンなんです。

犬は、日本でもアメリカでも最も一般的なペットです。初対面の人とでも、話の種に飼い犬の話題になることが結構あります。そんな時必ず聞かれるのが、「どんな犬を飼っているんですか？」という質問です。それに対する私の答が、今回のタイトルとした「ウチのペットはドーベルマンです」です。

そう答えると、相手が日本人の場合にはほぼ100%の確率で驚かれます。そして次のような反応が返ってきます。「えっ、あの大きな犬ですか？」「うわー、すごい飼ってますね！」「やっぱり（イメージ通りに）怖いですか？」「小さなお子さんがいて、危なくないのですか？」「噛まれたら痛いでしょ

うね！」—返事にはネガティブなニュアンスを伴っていることが多いです。

世間で知られるドーベルマンのイメージが、ナチス・ドイツの使っていた軍用犬から来ていることは間違いないでしょう。数多のテレビドラマや映画で、ナチスの冷たい顔をした将校のお供をする役や、ユダヤ人を逮捕し強制収容所に連れて行くときにけしかける役などでドーベルマンは多々使われてきました。昔、犯人を毎回のように射殺する非情の刑事を主人公とした漫画「ドーベルマン刑事」なんていうのもありました。

ところが、我が家のドーベルマンは、まったくそのようなイメージからかけ離れています。私が知る限り、世の中のドーベルマンはそのような犬ではありません。

我が家では、ドーベルマンをこれまで3頭飼ってきました。初めて飼ったきっかけは、妻の友人家族（米国人）が飼っていたドーベルマンを引き取ったことにありました。この家族がご主人の仕事の関係で日本に行くこと



になり、当時10歳だったドーベルマンをどうするか頭を抱えていました。大型犬でしかも老犬で、遠い上に住宅事情が悪い日本に連れて行くわけにいかなかったからです。

相談を受けた妻と私は、当時は子供もいなかったですし、その犬を引き受けることにしました。もちろん私も最初はいささか心配しておりました。なにしろドーベルマンは、“凶暴”なのですから。でもその心配はすぐ杞憂に終わりました。

ドーベルマンは実に賢い犬です。ちょっと注意をしてやれば「やってはいけないこと」を理解しますし、どうすればご褒美をもらえるかもすぐ飲み込みます。ですから「おしっこやウンチは外です」というのを教えるのも簡単ですし、様々なコマンド（伏せ、お座りなど）もすぐに覚えます。

ドーベルマンはまた、甘えん坊です。これまで飼った3頭とも相当な甘えん坊でしたし、他のドーベルマン飼いに聞いても皆そう言います。ドーベルマンという犬種自体がそういう性格なのだと思います。「触って触って」と言わんばかりにすり寄ってくるし、時には鼻先で飼い主の手をすくって自分の体に触らせようとしたりします。

ドーベルマンは、おとなしいです。普段はドッグベッドでずうっと寝ていて、来客があっても吠えません。また、寝ていて暇だからといって、家の中でいたずらをする事はありません。

飼ってみるとわかるのですが、こうした性格のドーベルマンは、実に家庭向きです。最初のドーベルマンは、偶然に友人からもらい受けたのがそうだったというだけでしたが、うちではそれ以後の2頭も全部ドーベルマンで通すことになりました。

我が家に2代目のドーベルマンが居た頃、長女が生まれました。そして、我が家の現在のドーベルマン（3頭目）が3歳の時に双子が生まれました。いずれのドーベルマンも、赤ん坊と



同じ部屋にいて全く問題ありませんでした。

もちろん、彼らが獣であることは間違いないので、注意は必要です。ドーベルマンに限ったことではありませんが、犬、特に大型犬を飼うにあたっては訓練に時間をかけることは必須です。それを怠れば、ドーベルマンのような賢い犬種でも悪い犬になり得ます。ドーベルマンが凶暴な犬に育ったら…マジで危ないですから。

またドーベルマンは活発な犬種です。走るのが大好き。だから、運動を十分にさせないとストレスが溜まってあらぬいたずらを始めるきっかけになり得ます。我が家のドーベルマンがほとんど家でいたずらをせずイイ子でいられるのは、毎日の散歩でたくさん運動をしていることが大きな理由になっているはずですよ。

犬を飼う上でのこうした基本にさえ気をつけておけば、ドーベルマンはとても良い家庭犬になります。私としてはぜひ、これから犬を飼おうとしている人にはドーベルマンをお薦めしたいです。とっても可愛いですよ！

筆者紹介

宮川良夫（みやがわ よしお）

United GIPs代表、弁理士・米国パテントエージェント
1956年 京都生まれ。1978年 同志社大学工学部卒業。
1986年 弁理士登録、1997年 米国パテントエージェント登録。新樹グローバル・アイピー特許業務法人を初めとして、世界7カ国（地域）にて8箇所の特許事務所設立、経営に携わる。1995年以来、ワシントンDCに滞在し、現職場はUnited IP Counselors, LLC。趣味は、Rock Creek Parkを有効利用した犬の散歩と子（孫？）育て。好きな言葉は「天地不仁」。